



## 棚田百選の三乗地区に活動拠点 コミュニティハウスを！

……森のようちえん まめでっぼう【富山県富山市】



### 団体設立経緯

2007年 有志の親子参加で、「森のおさんぽ会」を実施。  
2011年 富山に預かり可能な「森のようちえん」がなかったので、改めて、預かり保育が可能な団体を設立。  
2015年 更なる活動の充実を目指し、「認可外保育施設」の認定を受けるために、必要条件となる「拠点となる建物の登録」のため、八尾町に「いっぶく処 まめのま」という名前で、築43年の平屋の一戸建てを入手。  
2017年4月 認可外の届け出を出すことができました。

### 地域概要

富山市内から車で40分。富山市八尾町にある「日本の棚田百選」に選ばれた自然豊かな三乗地区。過疎化、高齢化が進んでいますが、地域の人同士のつながりは深く、「みのり棚田の学校」などの行事が開催され、地域の活性化がすすめられています。

「みのりの棚田」の元事務局長で、高齢化でやむを得ず当地を引っ越した元家主の山西陽作さん。長年愛したこの家と土地を譲り受ける際の言葉は「この地域を盛り上げる人にしか譲りたくない。」でした。

### 活動に至った背景や理由

預かり保育をするために団体を設立しましたが、認可外保育施設として活動するためには、拠点となる建物を有していることが条件となっていました。拠点建物を購入したことにより、2017年4月より、富山市に届出を出すことができました。

森のようちえんとしては、野外活動が中心で、「まめのま」を利用する頻度はそれほど高くないのですが、親同士のつながりが濃いことを活かして、「子連れのもちよりの場」として、また中山間地である八尾を「盛り上げる場」として、ここを利用したいと考えています。

|             |   |
|-------------|---|
| 設立年月        | …… 2007年12月   |
| メンバー数       | …… 35人  |
| 代表者名        | …… 五十嵐 恵美(いがらし・えみ)  |
| 連絡先         | 〒939-2407 富山市八尾町下乗嶺874<br>いっぶく処 まめのま内   |
| 電話          | 090-5170-9945   |
| メールアドレス     | mamedeppo@gmail.com   |
| ホームページ      | <a href="https://mamedeppo.jimdo.com/">https://mamedeppo.jimdo.com/</a>                       |
| facebookページ | <a href="https://www.facebook.com/toyamamedeppo/">https://www.facebook.com/toyamamedeppo/</a> |
| <団体のミッション>  | 自然の中でのびのびと子どもと保護者たちが、一緒に楽しみ、共に喜びを分かち合う場を作ります。会は地域との繋がりを持ち、いろいろな人々に子どもの育ちをみまもっていただけるよう努力します。   |

### 活動内容と成果

4月23日 きのくに子供の村学園理事長  
堀 真一郎氏 後援会

幼稚園選びに熱心な親たちは小学校をどのように考えているのでしょうか。今回まめでっぼうでは、「きのくに子供の村学園かつやま校」に見学視察に行き、話を聞いたうえで、理事長先生に富山までお越しいただき、「子供の幸福こそ、子供のしつけや養育の中で最も重要なものと見なされるべきであり、この幸福への最も主要な寄与は、子供にその個人的な自由を最大限認めてやることだ」(A.S.ニール)というお話をお聞きしました。



5月7日 ここみちゃんと旅するギフト「聖者の食卓」  
上映会とカレーギフトの会

「イベントは、参加費を払うもの」という既成概念を覆すこの映画会は、日本全国津々浦々を回って、「恩送り(Pay it forward)」されてきたものです。今回も野菜やおかず、お金の寄付がたくさん集まり、当然のように集まったメンバーもあつたかいハートの持ち主ばかりでした。初めて出会うとは思えない人と人との出会いが、素敵な場でした。



6月25日 第二回!ど真ん中名刺セミナーinまめのま

「あなたのだ真ん中は何ですか?」普通に作る名刺より、自分の想いを突き詰めて凝縮した名刺を作る会で、山科印刷さんの作る、もらった人も記憶に残る「ど真ん中名刺」は、すでに、富山の名物となりつつあります。



8月24-25日 まめでっぼう 親子お泊り会

大家族のように、共同生活をしよう! 毎年恒例のいつ来てもいつ帰ってもよいというユルさが売りのお泊り会。中途リタイアも可能なので、小さな赤ちゃん連れの親子でも、気軽に参加できます。誰が何をするという役割分担を決めないまめでっぼうでは、「今自分にできること」を探す癖がついています。大人が子供に背中を見せられる絶好のチャンス。もちろん子供が寝静まったあとは、お楽しみの…。

11月11-12日 Heart Angelしちゃおう!in八尾まめのま

小さな作家さんや、食料品店、施術師さんたちがあつまって、まめのまを華やかに盛り上げてくださいました。お腹も心も大満足です。



11月11-15日 いよいよ瓦葺き替え工事!

富山の春の大風による被害の後片付けに忙しい瓦屋さんの都合で、ずいぶん瓦工事がずれ込み、焦りました。雪が降る前に、そして3月までに終わらせないと…11月に入り、好天が続き、無事、素人たちとプロの連携作業で、工事は完了しました。



12月22-24日 次は薪ストーブ導入

まめのまが寒い!しかも富山は冬に人が集まりやすい!…ということで、あこがれの薪ストーブをまめのまに「みんなのお金を集めて」設置しませんか?という呼びかけをしました。おかげさまで素敵なストーブができました(しかもみたことない装置「ガビオン」が煙突にまとわりついているので、蓄熱効果があります。)

1月7日 不思議なクニのけんぼう 上映会

憲法改正について改めて勉強させてもらえるよい映画でした。さまざまな立場の方の意見が盛り込まれており、それをもとに、各自が意見を出し合いました。映画に出てくる水野スウさん、富山市議、富山県議候補者、富山大学の教授、八尾の盛り上げ隊の方など、様々な顔ぶれが勢ぞろいしました。



2月 薪ストーブ お披露目 ピザ会 数回

とても大きなストーブなので、鍋が4つも乗ります。中ではピザやベーコンも作れます。煙もこもりませんし、多くの人たちを魅了しています。今度はパンに挑戦です。この「まめのま」にまだまだ大活躍してもらうための、第1歩です。

3月11日 みそ作りの会

参加者大人子供合わせて50名以上 北陸唯一の種麹店「石黒種麹店(DASH村や、おいしんぼにもでてます)」の石黒八郎さんをお招きして、素人でも最高のお味噌が作れる、まめでっぼう最大の毎年開催イベントです。生きた味噌、本物の味噌のおいしさは、毎日のまめでっぼうのお味噌汁には欠かせないものとなっています。妊婦さんや子供の手には素敵な乳酸菌がいっぱいついています。アルコール殺菌しない味噌づくり。日本人は菌とともに生きてきたのです。



## 4月2-3日 小学生 自活キャンプ!

小学生キャンプでは「大人が準備、計画し、大人の考えたメニューを作り、大人の指示で清掃する」のが普通です。まめでっぼうではこの常識を覆します!「ホントは、子供たちはもっとできる存在な、はず!!」

「まめでっぼう」出身の小学生を中心に、1年生から中学2年生までが11人集まりました。事前に、何を食べたいか、作りたいかを話し合い、それぞれ「カレー(夜)・パンケーキ(朝)」「手巻き寿司(昼)・ピザ(翌昼)」に必要なものを買い出しに行きました。

お店オープン10時前まで、すったもんだを繰り返し、予算(1食300円)に見合う人数分の買い物ができるか…大人1名ずつ、各班を無言で追跡調査、様子を観察しました。もう、大人は笑いが止まらない…!!

結果は…「手巻き寿司、具材が寂しすぎた…納豆とかツナマヨとか買えばよかった」「余ったお金でおやつ買うんじゃないかった…」何人だからどれくらい必要か、という計算をいままでやったことがない、これは驚きです。

同時に、大人が今までいかに子供に口出しをしているか、ということも実感できました。言いたくなるのをこらえる場面が続出。大人にとっても子供にとっても試練の連続でした。

最終日、片づけ始める時間だけをつたえ、自由にさせておくと、お昼近くになって急に慌てだしました。が、なんとたくさん具材をずらりと並べ、1枚焼けたところで時間切れ。

誰一人文句も言わず、黙々と片づけ始める子供たち。参加した子供の保護者には、あとから「観察日記」が届けられました。「大人もみんなこれを経験するべきだと思う」と観察役の大人。子供たちも、「またやりたい!」と全員一致で次につながられました。



## 4月1日 まめのま クラフトカフェ始動!

11月に行われた「まめのまマルシェ」に加えて、「好きな手仕事を持ち寄ってみんなでわいわい楽しく作ろう!」というイベントです。

## 通年 火曜日 まめでっぼうのまめのま活動日

雨や雪の火曜日、あちこちの施設が定休日なので、まめでっぼうでは、まめのまで活動することになっています。クッキング、造形、絵本のよみかき、季節の行事などさまざまな楽しみがあります。

## まめでっぼうの森での活動

子供たちは、雨、雪、風の日も、外で過ごします。人工的なおもちゃがない森でも、子供たちは自ら遊びを創造します。大人は口も手も出さず、どの子もわが子のように見守ります。ふだんのわが子からは想像もつかない姿を見ることができたりします。大人同士のつながりも、自然志向で方向性が一致しているからか、とても深く、大家族のような関係を築いています。



## まめのまを整備した成果

屋根の修繕で雨漏りの心配もなくなり、心置きなく休憩場所として利用することが可能となりました。同時進行の「薪ストーブクラウドファンディング」との両輪により、快適性が増し、今までほぼゼロだった冬季のイベントを多く行うことができるようになりました。

## 課題と解決策

拠点が市内からやや遠いという立地の悪さをどのように克服していくか→そこにしかない「楽しさ・癒し・満足度・絆・ワークショップ」の創出機会をさらに増やします。日帰りには遠い場所なので、「簡易宿泊施設」の届け出、「食品衛生管理」は持っているので「営業許可」、さらには「加工所」のために「製造業」の届け出が必要であると考えています。

一番寒い季節に、まだ断熱性が不足→家自体に断熱材がまったく入っていないので、可能であれば、「壁・窓断熱工事」の助成金を考えたいです。

雇用の創出→まだ「まめのま=働くところでもある」というイメージがないので、そのきっかけとなるワークショップなどを始めていきます。畑を耕し、加工販売し、接客し、学び、くつろいでもらうという総合的なプロデュース(人脈・発信力<プレゼン力>・宣伝広告)・システム設計等を駆使していきたいと考えています。数年かけて、じっくり煮詰めていきたいです。

## 今後の予定

- 子供たちの自主性を見守る場として「自活キャンプ」
- 畑で自然栽培のワークショップ(無農薬栽培が、あまり主流でないため)
- 富山で新しい教育の可能性を考える会(一緒に模索してくれる仲間を増やす)
- 「大人も子供も思わず参加したくなるワークショップ」による週末自由学校(例:漆喰塗り体験、大工仕事、木材加工技術の見学、設計の基本の習得、最終目標はミニログハウスを自分たちで建てる等)
- 八尾にない「焼きたてパン」の販売用のガスオープン設置(助成金へ挑戦) …などを考えています。

